

海外史料の収集について —組織外資料収集の戦術と戦略—

沖縄県公文書館 富永 一也

全史料協沖縄大会において、沖縄県公文書館が海外で行っている資料収集事業について報告せよ、ということになった。そこで以下のようなことを考えながら、報告内容をまとめた。

まず、事業報告といっても、単なる事例発表（事実の羅列）に終わってしまったのでは、はるばる全国から集まっていた方々に申しわけがない。たしかに、この種の全国大会は、全史料協大会に限らず、メンバー同士の交流と親睦をはかるための機会を提供するという意義もあるかと思うが、本質はあくまで議論の場なのであり、そこにおける報告は、報告者から聴衆への一方通行であってはならない。すなわち、報告における具体的な方法論としては、聴衆の議論への参加を妨げないよう、沖縄の持つ歴史的な特異性（すなわち沖縄関係資料の特異性）を強調しすぎてはいけなものであり（消極的対策）、また、聴衆のより活発な議論参加を促すために、沖縄県の事例を用いながらも、それを足がかりにして、より一般的・普遍的な問題を提起することである（積極的対策）。

とはいえ、何も高尚な、難しい報告を行ったわけではない。報告のレジュメを見ていただくとわかるとおり、じつに常識的で平易な話である。実務屋として日々の業務に追われる中でときどき思いついたアイデアの継片から、今回の発表に意味のあるものを選び、事業報告とからませながら少しまとめてみたに過ぎない。そして、断片の多くはわたし自身の反省からきている。だから、あの報告は、わたしの涙をインクにして書かれたものだ。試みになめてみるとよ



い。きっと苦いはずだ。日々の業務で迷ったり、悩んだりしている人々には感じるところがあるのではないかと思う。ただし、いやしくもおおやけの場で発表するものであるからには、感情的なトーンは避けねばならない。そういうわけでレジュメ中、情動的な言葉づかいは一カ所にとどまっているし、それはそこを強調したい理由があったからこそ使ったのだ。

報告中、アーカイブスに関することで、争点となりそうな隠れトピックをとところどころに配置しておいた。ここでは種明かしをしないが、ひとつひとつが大きな議論に発展してしかるべきテーマである。ただ、アーカイブスについて、基本的に合意されていることなどあまりない、という印象をわたしは持つし、この印象は多くの人が共有しているのではないかと思う。したがってアーカイブスの理念、これを確立しておかないことには、個々の議論を一生懸命やっただとしても、単なるメソドロジーに墮してしまう可能性がある。報告で多用したコトバ（戦略、

戦術) を使えば、戦略なき戦術である。いずれにしる、理念なきメソッド議論は、せつかくそこに投入したエネルギーや資源がまったくの無駄になる怖さを秘めている。

理念を確立するためには、オープンで公正な議論を盛んに行うのは当然である。そして、はじめから議論を小さくまとめようとせず、あえて争点をきわだたせることだ。また、これが重要なことだが、多様な学問分野、特に理系の人材をどんどん呼び込んで議論に参加してもらうことである。たとえば数学など、二千年以上も前から体系づくりをしてきた学問だ。そこから学ばない手はない。また、応用系の科学からは、シミュレーションモデル構築を教えてもらえそうだし、膨大な組織資料の全体像把握には推計学が役立ちそうだ。文系の学問であれば、従来からアーカイブスにとっての必要性がいわれてきた行政学や法学の他にも、たとえば認識論や価値論であれば哲学や文化人類学、というように、諸学の成果をアーカイブスのために集めるのである。しかしながら現状は、アーカイブス界に人材を供給するdiscipline (学問) があまりに限られており、これは別にわが国だけの問

題ではないが、何とももったいない話だと思う。

とりあえず、アーカイブスになじみのうすい人々でも議論に入りやすいよう、jargon (限られた人々のあいだで通用する用語) は排していこう。議論における鍵となる語は、意味範囲をしっかりと規定しておこう。そして議論の作法を守り、論旨を明確にし、固定観念にとらわれることなくアイデアを自由に交換していけば、そこにおのずと、あまたの多様な才能が引きつけられるところの、じつに魅力的かつ知的にエキサイティングな場 (アイデアの自由市場と呼んでいい) が成立するはずだ。

つぎにアーカイブスの理念を確立しよう。理念とは、そこからすべての議論を出発させる、大前提となるテーゼといってよい。数学でいえば公理にあたる。それが実現されれば、あとは定理の証明問題といっしょだ。思い思いになされてきた議論も方向性を持つし、皆の努力もそこへ集中される。アーキバル・パラダイスなどこの世に存在するわけがないけれども、少しでも理想へ近づくべく、さあ出発しよう。